

# 下町における散策資源と街路構成に関する研究 谷中・根津・千駄木を事例として

土木大学 学生会員 ○高橋 愛  
土木大学 正会員 小柳 武和  
土木大学 正会員 桑原 裕史

## 1. 研究の背景と目的

まちのイメージ形成やそのまちを印象づけたりすることができるものとして散策が挙げられる。散策において、人がその空間でどのような体験をするかは重要であり、街路空間は単に交通としての機能を果たすだけでなく、まちを楽しめる魅力的な空間でなくてはならない。本研究では、谷根千と呼ばれる地域の街路を対象に、散策に訪れる人は何を目的に来ているのか、下町が好まれる要因はどこにあるのかを街路の構成と散策資源の分布の関係から明らかとし、谷根千の魅力を探ることで、魅力的な街路の形成や都市の魅力創出の手がかりを得ることを目的とする。

## 2. 対象地域

本研究では、東京の下町とされている谷根千と呼ばれる台東区谷中、文京区根津および文京区千駄木一帯のエリアを対象地域とする。この地域は戦災や震災の被害が少なく、古い街並みや建築物、江戸の町割りが残る情緒あふれるエリアとして、近年、人気を集めている。その中でも不忍通り、道灌山通り、言問通りおよびJR山手線で囲まれた範囲を対象に研究を行う。



図-1 谷根千の位置と対象範囲

## 3. 対象地域における散策の現状把握

### (1) ヒアリング調査

谷根千における散策の現状および散策者の意識を把握するため、谷根千を訪れた人を対象にヒアリング調査を行った。ヒアリング調査の結果、散策に好ましい街路の幅員として、0~2m が 13%、2~3m が 27.5%、3~4m が 31.9%、4~5m が 11.6%、5~6m が 4.4%、6~7m が 0%、7m 以上が 2.9%となった。

### (2) 散策資源

本研究では、散策において集客力のある資源を散策資源とし、現地調査、ヒアリング調査および資料調査により、谷根千を散策する上で魅力となっている資源を商業的散策資源、文化的散策資源、歴史的散策資源、地形的散策資源、自然的散策資源、感覺的散策資源、参加的散策資源の7グループに分類し、地図にプロットすることで散策資源の分布を把握した。商業的散策資源はその業種の多様さから飲食店、総菜屋、カフェ、甘味処、雑貨屋の5つに色分けした。(図-2)

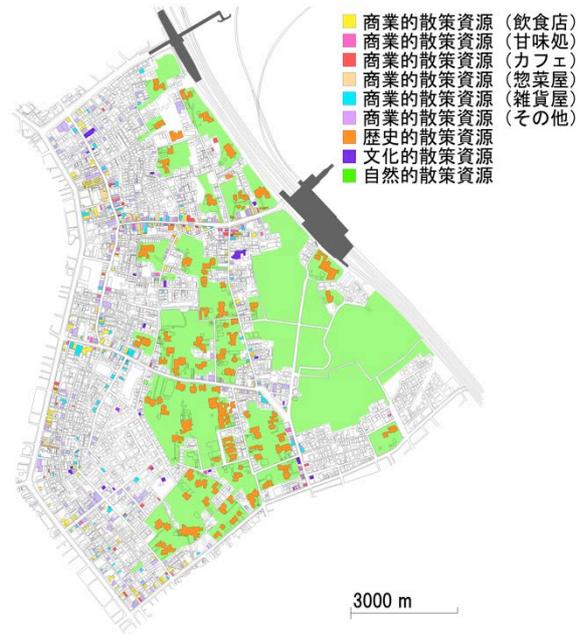


図-2 散策資源の分布

キーワード 散策、下町、谷根千、街路構成

連絡先 〒316-8511 茨城県日立市中成沢町 4-12-1 TEL:029-228-8111 FAX:0294-38-5249

4. 街路の把握と類型

街路の接続条件から466本の街路を抽出し、散策資源の有無から以下の4つの類型に分類した。(表-1)

- ①「Ⅰ型」2種類以上の散策資源を含む街路。
- ②「Ⅱ型」散策資源を1つ含む街路。
- ③「Ⅲ型」散策資源を含まないが、散策資源以外の商業施設を含む。
- ④「Ⅳ型」散策資源も商業施設も含まない。

5. 散策資源と街路構成

散策資源を含む類型Ⅰおよび類型Ⅱの181本の街路を対象に、ひとつの街路がどれだけ散策資源を含んでいるのかを散策時の街路の魅力の指標とした。その際、幅員の広い街路は総延長距離も長く、散策資源の数が多く含まれてしまうため、10mあたりの散策資源数とし、街路の距離による影響を考慮した。

$$\text{散策資源の個数 (個/10m)} = \frac{\text{街路の魅力の指標} \times \text{ひとつの街路が含む散策資源の個数 (個)}}{\text{街路の延長距離 / 10 (m)}}$$

人が道を歩くときに、幅員が街路の印象に影響する要因のひとつと考えられる。そのため、横軸に幅員、縦軸に街路ごとの指数を散布図に示した。(図-3) 幅員4m以下の範囲で散策資源を多く含む街路が多いことがわかる。

6. 結論

得られた成果を以下に示す。

- ① 谷根千を散策する上で集客力のある7つの散策資源を見いだした。
- ② 散策資源の有無から、谷根千における9つの街路の類型を見いだした。
- ③ 散策資源と街路の幅員の関係から、谷根千の街路の特性を明らかにした。

谷根千の散策資源分布を把握と街路の構成の関係から、散策者が感覚的に散策に好ましいと思う幅員の街路には散策資源が多く含まれており、このことが谷根千が近年散策場所として好まれている要因の一つである。散策というヒューマンスケールからまちを捉えることは、今後の都市計画を考えるうえで重要となると考える。

表-1 散策資源の有無による街路の類型

No.	延長距離 (m)	幅員 (m)	散策資源					その他	有無	類型
			商業的	文化的	歴史的	自然的	地形的			
37	445.3	4.1	3	1	3	4	1	7	●	Ⅰ
30	667.8	8.7	46	4	1	1	1	37	●	
354	660.5	15.9	35		8	8	1	18	●	
159	444.7	5.1	22	1	6	1		7	●	
136	98.2	8.9	20		1	1	1	4	●	
(他31本)										
130	194.8	1.7		1	3	1			●	
53	113.6	3.1			2	1	1		●	
54	538.6	5.5			5	3	1	2	●	
394	428.3	3.9			2	1	1		●	
246	168.1	4.7			5	5		2	●	
(他25本)										
87	77.4	2.1	16						●	Ⅱ
406	167.5	3.4	13					9	●	
279	406.5	6.2	10					4	●	
(他94本)										
144	95.0	2.0		1					●	
195	16.1	1.7		1					●	
223	168.0	3.1		1					●	
(他5本)										
52	75.2	4.0			2				●	
163	56.6	2.8			1				●	
379	11.7	2.0			1				●	
46	13.0	1.9				1			●	
125	67.2	2.0				1			●	
170	90.2	2.3				1			●	
(他2本)										
157	29.0	1.0					1		●	
400	110.2	3.9					1		●	
32	31.8	1.5						3	△	Ⅲ
96	62.4	2.6						3	△	
28	74.6	3.6						2	△	
34	11.4	5.3						2	△	
(他49本)										
3	19.5	4.6							×	Ⅳ
6	49.5	2.8							×	
9	11.2	1.7							×	
391	91.774	4.5365							×	
(他225本)										

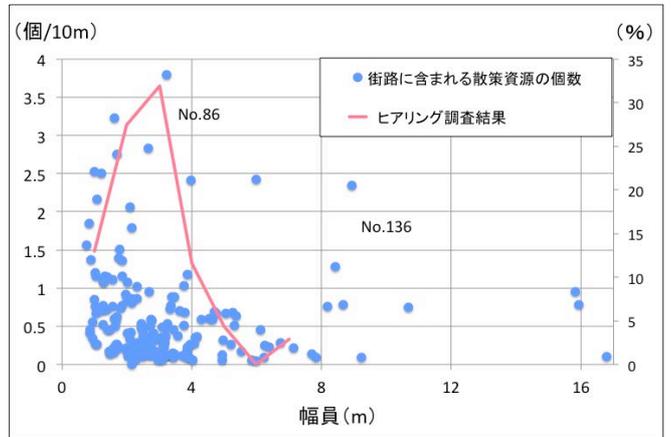


図-3 幅員から見た散策資源数とヒアリング調査結果の関係



図-4 No. 136 と No. 86 の街路

参考資料 谷根千ねっと www.yanesen.net  
高比良公成「上野・谷根千を極める！」株式会社アспект、2012年